

環境資源ギャラリー 建て替え Q&A

現在の環境資源ギャラリーは、建設からもうすぐ20年が経ち、老朽化が進んでいます。2020年5月には大きな故障が起き、それ以降ごみ処理がストップした回数は約120回（うち、重大トラブル5件）にものぼるなど、いつ重大なトラブルが発生してもおかしくない不安定な状態が続いています。（2025年3月21日時点）

そこで、掛川市・菊川市衛生施設組合は、新しいごみ処理施設を2030年4月に使い始めることを目標に、今はその建設準備を進めています。

Q1

今の施設を修理して使うことはできないの？



A 修理は難しいと判断しました

修理には新しい施設を建設するのと同じくらいの工事費（159.5億円）がかかり、また、10年しか使えないことがわかりました。

さらに、2020年5月に起きた大きな故障をしっかりと修理するには、建物を壊す必要があるとわかりました。

そのため、2021年1月、修理は難しいと判断し、2022年9月に新しい施設を作る方向性が決まりました。

Q2

新しい施設の建設工事中、ごみは出せなくなるの？



A 今までと変わらず、ごみを出せます

2025年3月末で今の施設の焼却炉は停止します。

新しい施設の使用開始までは、近隣市や民間業者のご協力をいただき、ごみを処理します。

このため、今の施設でのごみ受け入れや地域のごみステーションからのごみ回収も、今までと変わらず行いますので、ご安心ください。

Q3

なぜ、ごみを市外で処理するの？



A 安全に、安定的に、より経済的にごみ処理するためです

現在の環境資源ギャラリーは老朽化が進んでいるため、頻繁に故障します。

このまま使い続けると、ごみ処理が止まるリスクが高いため、安全・安心・経済面の観点から、静岡市などの近隣市や民間業者へ協力をお願いし、2025年度からごみをすべて市外に運び出すことを、2023年11月に決めました。

Q4

ごみの外部搬出によってどれだけ費用負担が増えるの？



A 1年間で約6.9億円です

現在かかっている費用との差し引きの約6.9億円が追加の費用負担です。

【現施設の運転管理費と外部搬出費用の比較】

	1年間の費用
現状（2024管理運営費）	約14億円
外部搬出費用（2025予算）	約20.9億円
差額	約6.9億円

外部搬出の方が、修理して現施設を使うより、11.2億円安くなります。

【現施設の修理による延長利用と外部搬出費用の比較】

	6年間の費用
現施設延長利用	約131.9億円
外部搬出費用	約120.7億円
差額	約11.2億円

Q5

建設にはいくらかかるの？



A 5年間で296億円(上限額)です

最近の物価の上昇により、建設費用の高騰が続いています。

金額は、複数のメーカーから正式に示された現状の市場を反映したもので、2021年1月に作られた計画よりも高い費用が必要になっています。

【他市建設費事例（2024年度契約）】

A市：約399億円

B市：約312億円

Q6

建設の準備は進んでいるの？



A 計画的に進めています

新しい廃棄物処理施設は、今の施設と同じ敷地内に建設します。

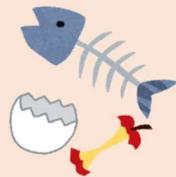
建設には広い敷地が必要になるため、今の施設の一部を壊して、敷地を広くする工事を2025年度に行います。

また、新しい施設の建設工事を行う事業者を2025年度に決めます。

2026年度から2029年度までの4年間で建設する予定です。

Q7

一緒に生ごみを処理する施設を整備したらどうか？



A 検討しましたが、今回の整備では見送りました

生ごみを資源にする施設を作ることについては、2023年6月から8月にかけて、専門家と検討しました。しかし、他の場所でトラブルが起きていることや、コストが高くなること、新しい施設を早く建てるための土地の問題など、いろいろな理由から、今回は採用しないことに決められました。

生ごみの資源化に向けては引き続き検討を進めていきます。

Q8

産業廃棄物を処理する施設の建設計画はどうなったの？



A なくなりました

2021年1月、掛川市・菊川市衛生施設組合はごみ処理施設の計画を作りました。

この計画では、家庭ごみと産業ごみの両方を処理する案が有力でしたが、市民の不安が高まり、「産業廃棄物受け入れ反対」の声が出ました。

そのため、掛川市と菊川市で検討委員会を作り、計画を見直しました。それによって、家庭ごみだけを処理する新しい施設を作ることに決められました。

お問い合わせ先：掛川市・菊川市衛生施設組合 0537-23-2273
掛川市 環境政策課 0537-21-1145
菊川市 環境推進課 0537-35-0916